

2017年度 教育実践研究論文 各賞決定!!



▲二次審査の様子

受賞者の皆様、誠におめでとうございます

1月26日(金)千葉県教育会館において、教育実践研究論文審査委員会(二次審査)を開催いたしました。本年度は、「学校部門」、「個人・グループ部門」合わせて40点の応募をいただき、千葉県総合教育センター所長安藤久彦審査委員長他15名の委員による厳正なる審査を経て、各賞が決定いたしました。なお、受賞者の皆様の一覧を裏面に記載いたしましたのでご覧ください。

また、研究と実践の成果を『教育実践研究論文集』として、毎年発刊しています。3月末に、各学校に1部ずつお届けいたしますのでご利用ください。

一安藤審査委員長のコメント

今年の論文は、学校・個人部門ともに現代的な課題に即したテーマが多くみられ、どれも甲乙つけ難い優れた内容でした。



学校部門 最優秀賞



松戸市立第五中学校
高橋 政弘 校長



テーマ

小中一貫教育を目指す小中兼務教員(中学校教員)による小学生への指導

—松戸市独自教科「言語活用科」を切り口として—

この度の受賞に際し、公益財団法人日本教育公務員弘済会千葉支部とご審査いただきました関係の皆様には感謝申し上げます。また、平成21年度から進めて参りました学区小学校との連携、そして小中一貫教育にご理解をいただき、小中兼務教員を配置していただいた千葉県教育委員会と松戸市教育委員会に心から御礼申し上げます。

今後も、松戸市独自教科「言語活用科」の効果を毎年検証し、児童生徒の学力向上に邁進して参ります。ありがとうございました。

KYOUJIKU JISSEN KENKYU RONBUN 2017



個人・グループ部門 最優秀賞



木更津市立波岡小学校
古館 良純 教諭

テーマ

考え、議論する道徳授業の在り方

—自分らしさを発揮し合う、対話・話し合い活動を通して—

最優秀賞への選出、本当に嬉しく思っています。教科化される道徳。「どのくらいの方が本気で考えているのか。不安に感じているのか」「自分自身は4月から道徳と向き合う準備ができているのか」ということからのスタートでした。

私の周りでは、教科化に対してマイナスな言葉が多く聞こえていました。「教科書はどうするのか」「そもそも評価してもいいのか」というようなものです。

でも、文科省のページを読んでみると、子どもたちの心をどんどん豊かにしていこうというメッセージに受け取ることができました。私は、「せっかく教科化されるのだから、プラスの面に目を向けて取り組みたい」そう強く思ったのです。

受賞してからがスタートです。ここから、よりよい道徳の実践のために「考え、議論」し続けていきたいです。本当にありがとうございました。

KYOUJIKU JISSEN KENKYU RONBUN 2017

2017年度 教育実践研究論文受賞者一覧



学校部門

| | | | | | |
|-----------|-------------|----------------|--------------------|-------|-----------------------------------|
| | 最優秀賞 | 松戸市立第五中学校 | 校長 | 高橋 政弘 | 小中一貫教育を目指す小中兼務教員(中学校教員)による小学生への指導 |
| | 優秀賞 | 東金市立丘山小学校 | 校長 | 林 真一郎 | 小規模校の利点を最大限に生かした教育活動の展開 |
| | 優秀賞 | 成田市立八生小学校 | 校長 | 渡邊 秀子 | 小規模校の良さを生かした学力向上の取り組み |
| | 優良賞 | 勝浦市立勝浦小学校 | 校長 | 岩政 智子 | 勝浦の恵みできらきら笑顔!! |
| | 優良賞 | 浦安市立美浜南小学校 | 校長 | 江黒 友美 | 教職員の「参画」を促し、チーム学校として取り組む「食育」の推進 |
| | 優良賞 | 袖ヶ浦市立平岡小学校幽谷分校 | 校長 | 長坂 喜郎 | ふるさとの豊かな環境を守る教育実践 |
| | 奨励賞 | 千葉県立一宮商業高等学校 | 校長 | 田中 薫 | 2020東京五輪の地元開催から学ぶ地域貢献活動について |
| | | 市川市立大洲小学校 | 校長 | 山中 利之 | 子供たちが主体的に学ぶ学校づくりをめざして |
| | | 習志野市立谷津南小学校 | 校長 | 佐久間繁美 | 子どもの思考力を高める言語活動のあり方 |
| | | 松戸市立大橋小学校 | 校長 | 山中 一廣 | 100年の時を超えて、21世紀の子どもたちへ |
| | | 栄町立安食台小学校 | 校長 | 星 勇人 | 活力にあふれ、健やかでたくましく活動する児童の育成 |
| | | 白子町立関小学校 | 校長 | 鈴木 輝夫 | ふるさと白子から未来へ夢が広がる関小教育 |
| | | 袖ヶ浦市立昭和小学校 | 校長 | 鴛田 道雄 | 「思考力・判断力・表現力を育てる算数科指導のあり方」 |
| | | 千葉市立椿森中学校 | 校長 | 飯田 良 | 「豊かな人間性」を育む教育活動の創造 |
| | | 野田市立東部中学校 | 校長 | 飯森 淳 | 東部中学校の主権者教育・主体性と自己有用感を育成する |
| | | 我孫子市立湖北台中学校 | 校長 | 稲村 光男 | 障がい種を超え、進路を見据えた特別支援学級の新しい編成と取り組み |
| 勝浦市立勝浦中学校 | 校長 | 井上 晴彦 | 学校・郷土を愛する生徒の育成の在り方 | | |
| 茂原市立新治小学校 | 校長 | 内田 美之 | 地域に根差した環境学習 | | |

個人・グループ部門

| | | | | | |
|------------|---------------|---------------|------------------------------|-------|------------------------------------|
| | 最優秀賞 | 木更津市立波岡小学校 | 教諭 | 古館 良純 | 考え、議論する道徳授業の在り方 |
| | 優秀賞 | 千葉県立四街道特別支援学校 | 教諭 | 堂前 晃子 | DMD児の自立活動(言語)を考慮した「授業づくり」の検討 |
| | 優秀賞 | 君津市立八重原小学校 | 教諭 | 柳井 通孝 | 自分の思いや考えを持ち「自ら学ぶ子」の育成 |
| | 優良賞 | 香取市立小見川東小学校 | 校長 | 北川 修一 | 教員の資質向上を目指した校長の4年間の実践 |
| | 優良賞 | 市川市立南新浜小学校 | 教諭 | 加藤 慎二 | 友だちと関わり合い、個々の考えを高め合う児童の育成 |
| | 優良賞 | 千葉県立幕張総合高等学校 | 教諭 | 松丸 信一 | 成績処理業務の省力化と詳細なデータ収集による授業評価用の基礎資料作成 |
| | 奨励賞 | 千葉県立市川南高等学校 | 教諭 | 近藤 克彦 | マスコットキャラクターによる学校活性化及びPRの実践 |
| | | 千葉県立白井高等学校 | 教諭 | 小島江津子 | 新科目「公共」に向けた実践事例 |
| | | 松戸市立松戸高等学校 | 教諭 | 萩原 利幸 | 「知識の定着」と「生徒が主体的に取り組む力」を両立する授業を目指して |
| | | 市原市立養老小学校 | 教諭 | 森 圭子 | 相手のよさを認め合う心の育成 |
| | | 船橋市立若松小学校 | 教諭 | 佐藤 裕子 | クラスルームイングリッシュ活用の工夫 |
| | | 市川市立南新浜小学校 | 校長 | 櫻井 茂樹 | 子どもが絶好調と言える学校を目指して |
| | | 市川市立南新浜小学校 | 教諭 | 後藤美咲子 | 豊かな心を育てる道徳教育 |
| | | 野田市立南部小学校 | 教諭 | 渡部 悠介 | 家庭学習の習慣化に向けた指導と評価 |
| | | 流山市立流山小学校 | 教諭 | 安藤 淳一 | 運動が苦手な児童への支援 |
| | | 柏市立大津ヶ丘第一小学校 | 教諭 | 井上 昇 | 未来を生きぬく児童の育成を目指した3年間の実践 |
| | | 柏市立大津ヶ丘第二小学校 | 主幹教諭 | 吉村 誠人 | 「特別の教科 道徳」でのテーマ発問型の授業実践の定着について |
| | | 千葉市立大椎中学校 | 校長 | 諸木 盛吉 | 校長としてのあり方について |
| 流山市立東深井中学校 | 主幹教諭 | 町田 昌子 | 英語及び言語活動の充実を通しての英語表現力の育成について | | |
| 袖ヶ浦市立平川中学校 | 教諭 | 須永 雅巳 | 「ものづくり」への関心・意欲を高める一実践 | | |
| 市川市立塩浜学園 | 副校長 | 松井 聡 | 「地域とともにある学校」市川市立塩浜学園の挑戦 | | |
| 酒々井町教育委員会 | 教 育 フアンクター | 一場 郁夫 | 「アクティブ・ラーニング」の視点に基づく博物館学習の実践 | | |

※順不同



情宣委員が取材してきました! 地球環境について学ぶ

■ 環境問題を考える 君津の小学校で「みどりの授業 ~マングローブ物語~」を実施

2017年12月に、君津市立小櫃小学校(山村由美子校長)と同市立秋元小学校(大野喜弘校長)の2校において、高学年を対象とした「みどりの授業」が開かれました。これは、千葉教弘の提携保険会社である東京海上日動火災保険(株)が企画・運営している環境について考えるプログラムの1つで、講師は千葉教弘の職員と、同社の社員が担当しました。

このプログラムは、地球環境を守るために同社が1999年から実施しているマングローブの植林活動をテーマに、子どもたちが身近に取り組める温暖化防止策について話し合い、発表する講義と対話形式の授業形態が取り入れられています。

授業では映像により、「マングローブがどこに生えているのか」、「どんな役割があるのか」などの紹介から始まり、地球温暖化についての説明がありました。授業後半では、グループに分かれて「地球環境のためにできる取り組みを考えてみよう」と呼び掛けると、「節電をする」「いらなくなった服を売ってリサイクルする」「外で遊ぶ」などたくさんの発表がありました。講師からは、「子どもたちが、現在の課題・今後の問題に対して、真剣に考え、発表する児童の姿には頼もしさを感じました」と、感想が述べられました。



▲積極的に発表をする児童(小櫃小学校)



▶マングローブの説明をする講師(秋元小学校)



▶授業のメモをとる児童(小櫃小学校)

地球温暖化がクローズアップされている現状ともよくマッチしており、自然豊かな秋元小学校区の居住者である児童に対しては、これからも豊かな自然環境を守る実践的態度の育成を図っていきたくと考えています。

秋元小学校 大野校長

地球の環境を守るために取組んでいることが、子どもたちにわかりやすく伝えられました。児童一人ひとりができることを具体的に考えさせ、話し合えたことが、これからの生活につながると考えます。ありがとうございました。

小櫃小学校 山村校長

お知らせ

千葉教弘では、教育関係福祉団体として割安な団体扱の損害保険(自動車・火災・教職員賠償責任保険)で教職員の皆様の安心を支えています。お電話またはインターネットでもお見積りをとることができますので、お気軽にお問合せください。

ご退職予定の皆様へ

千葉教弘の自動車保険は、**ご退職後も引き続きご継続いただけます。**
もちろん、団体扱割引もそのまま!

業務中や、日常の様々なトラブルから教職員の皆様を守る、**教弘まなびやスーパープラン**
(教職員賠償責任保険+教職員総合保険)の
4月加入の申込みは、**3/30締切です!**

※4月以降の中途加入もできます。
詳しくはお問合せください。



上記に関するお問合せは 取扱代理店 千葉教弘 損害保険係

TEL:0120-10-8851 FAX:0120-70-8851

Email:info@chibakyoko.co.jp

千葉教弘

検索

損保ページにアクセス

退職予定者のつどい 8つの会場で11回実施しました!



千葉教弘では毎年県内の各地区において、退職予定の教職員の皆様を対象に「退職予定者のつどい」を開催しています。今年度は、約600名の教職員の皆様にご参加いただきました。ジブラルタ生命の山口営業所長より、つどいに参加しての感想をいただきましたのでご紹介します。

今年度も、「退職予定者のつどい」に多くの教職員の皆様にご参加いただきありがとうございました。つどいの中でもお話をさせていただいた「教弘保険のご継続」について、説明させていただきました。特に、私たちのお客様の中でも、60歳～65歳の間に病



▲つどいの様子(船橋会場)

に倒れられる方が非常に多く、実際に保険金給付金額でも、この60歳～65歳の方々への給付額が一番高いのです。現職中は気を張り詰めてお仕事をされていた方が多くいらっしゃると思いますが、ご退職と共に、ふと安堵した瞬間に病

気になる方も少なくないということです。

実は、教職員の皆さんしか加入できない「教弘保険」は、現職中のみならず、ご退職後も65歳までご継続でき、更に健康状態に関わらず80歳まで更新し、継続できるという素晴らしい利点があります。是非とも、多くの教職員の皆さんに教職員の皆さんしか受けることができないサービス「教弘保険」をご利用いただければと思います。

次年度も「退職予定者のつどい」を開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

ジブラルタ生命 船橋第三営業所
所長 山口 高志



「退職予定者のつどい」の開催のご案内は毎年9月頃に広報誌「きょうこう千葉」で案内しています。他にも教弘保険のことでなにかありましたら、お気軽にジブラルタ生命の学校担当LCまでご連絡ください。

広報誌「きょうこう千葉」ができるまで

皆様と千葉教弘をつなぐ広報誌「きょうこう千葉」を、より身近に活用していただくため、情宣委員を中心に、試行錯誤、検討を重ね制作しています。ひよっこ情宣委員も奮闘中です!(わろてんか)今回は、「きょうこう千葉」ができるまでをまとめてみました。

- 1 企画会議を毎週火曜に実施し、掲載内容・担当を決め、情報の共有を図っています。
- 2 原稿依頼の連絡、学校の取材等を実施し、インタビューや写真撮影を行っています。

◇ きょうこう千葉 来年度の発行予定 ◇

| | |
|-----------------------|-------------------------|
| 6月 No227「教育実践研究論文募集」 | 1月 No230「新年のごあいさつ」 |
| 9月 No228「退職予定者の集い案内」 | 2月 No231「貸与奨学生募集」 |
| 10月 No229「学校研究助成事業報告」 | 3月 No232「教育実践研究論文受賞者発表」 |



- 3 原稿整理・レイアウト が大変です。(一番苦労するところです!)
- 4 全体のレイアウトを終えたら、印刷担当者 と打合せを行います。

初校 ▶ 直し ▶ 再校 ▶ 校了

- 5 印刷納品・発送が終わると

＼ 😊 ホッとします。／

MAIL おたより募集!

“千葉教弘情宣委員会”では皆さまの声を募集しています

宛先 ★郵送で応募
〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-10 千葉県教育会館新館7F
「おたより募集」係
氏名・勤務先・電話番号または携帯番号を明記してください。

★メールで応募 Email: info@chibakyo.co.jp
件名に「おたより募集」と記入してお送りください。
なお、投稿された原稿はお返しできませんので、あらかじめご了承ください。

掲載させていただいた方には、千葉教弘オリジナルグッズをプレゼントいたします!



千葉教弘が発行している広報誌「きょうこう千葉」は、県内の公立小・中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園・こども園に発送しています。